

■平成29年度第10回（第278回）都市経営戦略会議結果概要

【日 時】 平成29年11月28日（火） 午後3時00分～午後3時30分

【場 所】 政策会議室

【出席者】 市長、日野副市長、高橋副市長、松本副市長、教育長、都市戦略本部長、
総務局長、財政局長、総合政策監、経済局長

【議 題】 旧岩槻区役所敷地における「(仮称)にぎわい交流館いわつき」の基本構想・
基本計画(案)について

< 提 案 説 明 >

旧岩槻区役所敷地における「(仮称)にぎわい交流館いわつき」の基本構想・基本計画(案)について、経済局から次のような説明があった。

- ・ 前回の審議（平成29年9月27日、平成29年度第6回都市経営戦略会議）でご指摘いただいた事項を踏まえ、地域住民と意見交換を実施し、内容の検討を進め、基本構想・基本計画(案)を作成した。
- ・ 意見交換は10月から11月にかけて実施。地域住民・団体からは、すでにいただいている意見を取り入れていることなどもあり、基本構想(案)の内容については新たな意見はなかった。
- ・ 基本計画(案)については、「施設計画」の「配置及び形状」について具体的な意見を数多くいただいたが、いずれも基本設計において精査・検討の対象となる部分であるため、今後の基本設計の中で対応することとした。
- ・ 基本構想・基本計画(案)は2部構成となっており、第Ⅰ部の基本構想は事業の目的など5つの章立て、第Ⅱ部の基本計画は事業計画など6つの章立てで構成。
- ・ 基本構想(案)については、前回の審議で示した内容と変更はなし。
- ・ 基本計画(案)について、1章「事業計画」では、実施事業を「①産業振興事業」、「②観光支援事業」、「③サービス事業」、「④コミュニティ支援事業」、「⑤学習等支援事業」とし、2章「利活用計画」と合わせて、それぞれの活用の具体的なイメージに基づく必要な施設機能・構造を示した。
- ・ 3章「施設計画」では、施設建設の検討の結果、鉄骨造とコンテナ造のメリット・デメリットを比較した上で鉄骨造とすることとした。
- ・ 4章「事業手法について」では、整備手法を公設方式とし、運営手法を指定管理方式とした。
- ・ 5章「事業の推進」では、平成31年度末の(仮称)岩槻人形博物館との同時開館を目指し、整備スケジュールを示した。
- ・ そのほか、6章で「設計に向けた配慮事項」を挙げた。

- ・ 以上「(仮称)にぎわい交流館いわつき 基本構想・基本計画(案)」について、ご審議をいただきたい。

< 意見等 >

- ・ 施設の運営は指定管理とすることとしているが、カフェ・レストランやショップも含めて指定管理とするものか。
- カフェ・レストランやショップについては、ノウハウのあるところに再委託となることも想定している。地域密着型の自主事業を行うことを指定管理の要件と考えており、この点を重視して指定管理者の選定を行う。
- ・ 完全な民間ベースの運営は困難であるとしても、カフェ・レストランやショップといった部分もあり、できるだけ民間の活力を有効に活用した運営となることを考えていただきたい。
- ・ 「伊香保おもちゃと人形自動車博物館」など参考になる事例がある。
- ・ 他方、(仮称)岩槻人形博物館は市直営となるとのこと、人形博物館と連動した運営について、指定管理者はしっかり連携できるようにすること。
- 施設の指定管理の要件で考慮したい。
- ・ 岩槻区のイベント時での広場の活用など、にぎわい交流施設と人形博物館との連動をしっかりとしていきたい。
- ・ 小中学校に活発に利用させていただきたい。魅力のあるプログラムとして、市内の学校だけでなく、近隣の教育委員会にアピールすることも可能と考える。
- すでにある岩槻の人形店工房見学と組み合わせることなど、学習の幅がさらに広がるようなにぎわい交流施設ならではのプログラムの実施ができると思料。

< 結果 >

- ・ 経済局発議の旧岩槻区役所敷地における「(仮称)にぎわい交流館いわつき」の基本構想・基本計画(案)については、原案のとおり了承とする。ただし、以下の点に留意すること。
 1. 運営に関して、特にカフェ・レストランやショップなど、民間活力を有効に活用し、黒字運営とする制度設計を検討すること。

< 会議資料 >

(資料1) 旧岩槻区役所敷地における「(仮称)にぎわい交流館いわつき」の基本構想・基本計画(案)について

(資料2) (仮称)にぎわい交流館いわつき基本構想・基本計画(案)